

カドミレス 黄銅棒

RoHS指令対応
(カドミ75PPM以下)

サイズ
丸棒 4.5~60mm
六角棒 5~40mm

常時豊富に在庫
その他のサイズも対応
可能、お任せ下さい!

株式会社三木商会
東大阪営業所

〒578-0921

大阪府東大阪市水走3丁目5-10

TEL 072-962-8000

FAX 072-962-8666

日刊メタルレポート

発行所
株式会社 日刊金属新聞社
本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
富山支社 富山市曙町1-30-508号内
電話 (076) 444-6836
購読料 半年44,100円(前納) 3ヵ月22,050円

輸入はいずれもマイナスに は「二次合金とスクラップ増加」

橋本健一郎氏リポート②
・アルミ

【概況】七月前半は前月の流れを引き継ぎ好調。六月の米雇用統計の非農業雇用者数が八万人増と予測の一〇万人増を下回るなどマイナス材料もあったが、基本的にはECB・中国の利下げや八月の中国CPI(消費者物価)が二・二%増とインフレ判断の四・五%を下回ったことによる中国の景気対策期待から上昇。七、六九〇ドル(セツル)と約四〇ドル上昇しての前半締めとなった。

後半は中国、温家宝首相が国内景気に関して慎重な見方を示し、当局高官が七、九月期のGDPに関して七・四%増まで軟化するのではなどのマイナス発言を行う中、米格付け会社ムーディーズがドイツ、オランダ、ルクセンブルグの格下げを行うなど悪材料が重なり、一時七、三〇〇ドル台まで急落。しかし独仏両首脳が欧州問題に関しての共同声明を発表しそれらを好感したことから、八月一日現在、前半から二〇ドル下落の七、五二〇ドル、建値六三万円のスタートとなった。

(面へ続く)

鉱物資源の輸出認可を加速

五五社に輸出許可発給インド

インドネシアの貿易省高官はこの程、五月に鉱物資源の輸出抑制措置を導入して以降、当局がこれまでに五五の企業に輸出許可を発給したと明らかにした。

世界有数の金属輸出国であるインドネシアは今年五月、鉱石の輸出に二〇%の関税をかけるなど、鉱物資源の輸出に関する新規制を導入した。新規制下で輸出許可を得るには、国内鉱山各社は、鉱石の加工を義務付ける二〇一四年の新法導入前に、精錬所の建設計画を提出する必要がある。

貿易省外国貿易担当局のデディ・サレ局長によると、許可を得た五五社中、ニッケル鉱石の採掘業者は三二社、鉄鉱石採掘業者は六社、銅生産者は二社、ボーキサイト採掘会社は一〇社。

七月初め時点で許可を得た企業の数は一三社だった。輸出許可の発給ペースが遅いことから、鉱物輸出は最大で九〇%落ち込んだ。

これまでに輸出許可を取得した企業には、米ニューモント・マイニング、インドネシアのPTアネカ・タンバン、米フリーポート・マクモラン・カッパ&ゴールド、PT Sebeluk Iron Lateritic Ore、PTサンバス・ミネラル・マイニングなどがある。

(一面より続く)

【前月の経済指標】

◆日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比一四・三％増の八万九千三百一十九台であった。

◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前月比三・六％増の三万二千八百五十三台(前年比三六・一％増)。

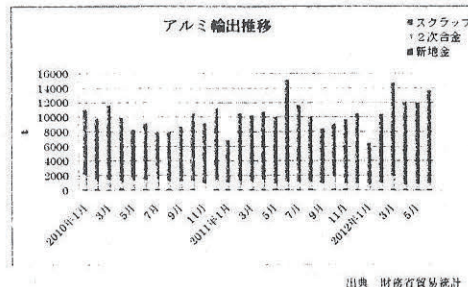
◆新設住宅着工戸数

国土交通省によると、新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)七・三％増(昨年比〇・二％減)の七万二千五百六十六戸であった。

◆貿易関連指標

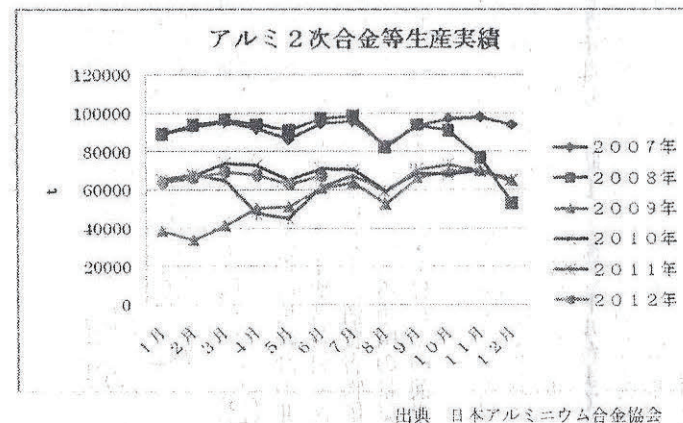
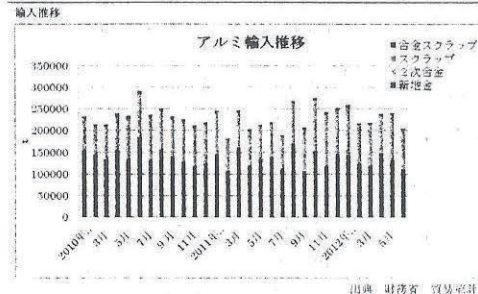
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニウム地金が前月比二〇・五％減の一六・一トン、二次合金が一六・九％増の八千三百七十七トン、スクラップが二六・五％増の一万二千七百三十六トン。

	4月	5月	6月
輸出			
新地金	84 t	146 t	116 t
前月比	-56.7%	+74%	-20.5%
二次合金	657 t	716 t	837 t
前月比	-60.4%	+9%	+16.9%
スクラップ	11361 t	10067 t	12736 t
前月比	-11.7%	-2.7%	+26.5%
輸出推移			

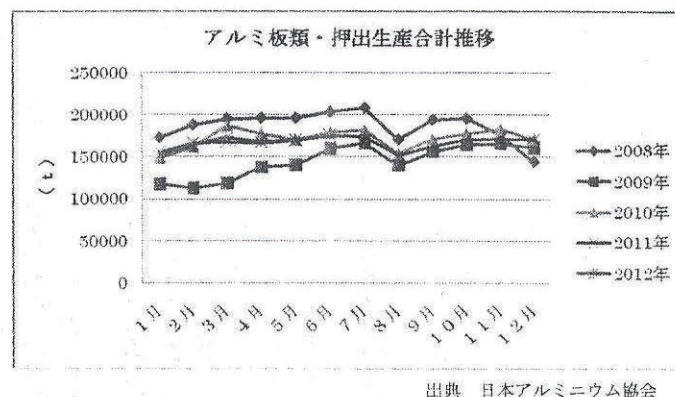


輸入は新地金が前月比九・一％減の一萬九千九百八十八トン、二次合金が三・五％減の九千一百一十トン、スクラップが三・四％減の六千八百七十八トン、合金スクラップは二・一％減の二、二八トン。

	4月	5月	6月
輸入			
新地金	14万7955 t	13万1889 t	11万9908 t
前月比	+23.4%	-10.9%	-9.1%
二次合金	8万7399 t	10万5156 t	9万1000 t
前月比	-6.8%	+20.3%	-13.5%
スクラップ	681 t	711 t	687 t
前月比	-47.1%	+4.6%	-3.4%
合金スクラップ	3753 t	3678 t	2828 t
前月比	-1.8%	-2%	-21.1%
輸入推移			



日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比六・五％増の六万七、一一一トンであった(昨年対比八・五％増)。(六面に続く)



【前月の国内指標】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比三・五％増の一七万六、四六九トン(昨年対比一％増)。

アルミスクラップ相場な軟調か二次合金生産、伸び悩みへ海外産に押され

(二面より続く)

【見通し】

自動車関連は堅調、住宅は安定、軽圧品は堅調の月となった。

欧州懸念は独仏両首脳の間で共同声明やECBドラギ発言の期待感が続き現在では安定。

自動車生産は前年比二〇・三%増の八九万三、一四九台と一カ月連続上昇し、堅調に推移。

また国内自動車販売台数も三二万八、五四三台と前年比三六・一%増と急上昇。

今月も自動車関連のアルミ二次合金生産は昨年対比八・五%増と四カ月連続上昇、今後は夏季休暇のため調整あり。

その他、住宅・家電需要が見込める圧延・押出品生産数は前月比三・五%増の一七万六、四六九t。昨年対比一%増と自動車・住宅に支えられ小幅増加。

新設住宅着工数は季節調整前月比七・三%増の七万二、五六六戸、前年比は〇・二%減とやや伸び悩み。

輸入塊は上海シグマなどのハイグレード物で七月末現在では最高値二、一八〇ドル(二〇マイナス)、ロシア塊は一、八五〇ドル(五〇マイナス)。港値にすれば一七五円、一五〇円と、一七五円前後の国内ものと同等か安め。

輸入は新地金が前月比九・一%減の一・九万九、九〇八t、自動車関連の二次合金は二・五%減の九万一千t、スクラップは三・四%減の六八七t、合金スクラップは二・三・一%減の二、八二八t。

輸出は新地金が前月比二〇・五%減の一・一六t。二次合金が一六・九%増の八三七t、スクラップが二六・五%増の一・二万七、七三六t。

アルミ原料需給に関して震災の復興需要も一段落、新設住宅着工数は四カ月ぶりの前年割れ〇・二%減(前年比)とこちらも一段落。

最大の需要家である自動車メーカーの自動車生産・販売共、二〇・三%増と三六・一%増と好調維持。二次合金生産も八・五%増(前年比)と共に上昇、ただし引き続き格安の輸入塊の増加が考えられ今後はこちらも生産は伸び悩むと予測。

今月は二次合金メーカーは夏季休暇やその後の先行き不安(欧州問題)を背景に購買意欲はあまりない。

LME価格については弱含み横ばい。

ECBの国債買取りや中国の胡錦濤・温家宝の積極財政発言などのプラス材料はあるがFOMCで追加的金融緩和(QE3)が行われる可能性が低い事などから、スクラップ価格については七月後半価格から据え置き五円安の予測。

七月の米雇用一六・三万人増

失業率は八・三%—労働省

米労働省が三日発表した七月の雇用統計によると、景気動向を反映する非農業部門の就業者数は季節調整済みで前月比一六万三、〇〇〇人の増加となった。増加幅は下方修正された前月(六万四、〇〇〇人増)を上回った。失業率は八・三%と、前月から〇・一ポイント悪化した。

就業者数は大きく増加したものの、失業率の安定的な改善に必要とされる月二〇万人増には届かない状況が続いている。

市場予想(ロイター通信調べ)は就業者数が一〇万人増、失業率が前月と同じ八・二%だった。

七月は民間部門の就業者数が一七万二、〇〇〇人増と、増加幅は前月の七万三、〇〇〇人から大幅増加。このうち物品生産は二万四、〇〇〇人増となり、前月の一万三、〇〇〇人から大幅増加。サービスも一四万八、〇〇〇人増と前月の六万人増から二倍以上増加した。

物品生産のうち、製造業は自動車などの耐久財を中心に二万五、〇〇〇人増と前月の一万八千人増から増えたが、建設業は一、〇〇〇人減と前月の四、〇〇〇人増からマイナスに転じた。一方、サービスは小売りが六、七〇〇人増、運輸・倉庫保管が六、九〇〇人増といずれもプラスに回復した。

政府部門は九、〇〇〇人減少と、前月の減少幅と同じだった。

週平均労働時間も三三・七時間と横ばい。平均時給は一九・七七ドルと前月からわずかに上昇した。